

ヒューマンコミュニケーション～人にやさしい情報通信社会を実現する コミュニケーション技術～論文特集の発行にあたって

ヒューマンコミュニケーション～人にやさしい情報通信社会を実現する
コミュニケーション技術～論文特集編集委員会

委員長 渡辺 昌洋



情報通信技術（ICT）は急速に発展、普及し、我々の日常生活に欠かすことのできないものになっており、人と人とのコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。しかし、ICTを生かし、より便利な生活を享受するためには、情報通信技術を用いた人と人とのコミュニケーションを支えるヒューマンコミュニケーションの研究が不可欠である。ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）では、人と人、人と情報通信機器との、よりよいコミュニケーションに関する研究を進めている。ヒューマンコミュニケーション研究のカバーする分野は広く、人間の感覚・心理から、福祉、医療など日常生活に密着した技術、更に、マルチメディア・仮想環境から、ICT倫理まで様々な分野で議論が行われている。HCGでは最新の研究成果を広く会員に知らせることを目的とし、ヒューマンコミュニケーション～人にやさしい情報通信社会を実現するコミュニケーション技術～論文特集を企画した。

本特集には、一般論文、レターを合わせて37編の投稿があった。厳正な査読を行った結果、一般論文13編、レター1編を採録とした。これらの論文は、ヒューマンコミュニケーション基礎、画像・映像処理、ユニバーサルデザイン、ヒューマンコンピュータインタラクション、音声対話、音声翻訳、創造・思考・発想支援、コミュニケーション支援、知的エージェントのカテゴリに分かれており、人にやさしい情報通信社会を実現するコミュニケーション技術について広く俯瞰できる内容となっている。

HCGではこれまでに和文論文誌にて3回、英文論文

誌にて3回の特集を組んできた。今回は、前回と同様に和文論文誌Dでの特集を企画した。HCGでは、HCGシンポジウムのプログラム委員長が本特集の編集委員長を担当し、論文特集の企画を行う体制を整備しており、今後は、毎年、ヒューマンコミュニケーション特集を企画することを予定している。本特集とHCGシンポジウムとの連携を深めることとし、今回、採録した論文にも、HCGシンポジウム2011からの推薦論文1編が含まれている。読者の皆様には、研究発表の場としてHCGシンポジウム並びにヒューマンコミュニケーション論文特集を大いに活用して頂き、多くの研究成果を発表して頂きたい。人にやさしいコミュニケーション技術を扱った本特集が、ヒューマンコミュニケーション分野の研究を専門とされる皆様だけでなく、情報システム分野の研究を専門とされる皆様に対しても、最新の情報と気づきを与え、今後の研究に対して大いに参考にして頂けることを期待している。

なお、本特集は多くの方々の御尽力により完成した。本特集に御投稿頂いた方々、査読に取り組んで頂いた方々と編集委員、特に、編集幹事の安藤英由樹先生、亀田能成先生、そして、和文論文誌D編集委員会幹事でもある和田親宗先生には多大な御尽力を頂いたことをここに記し、深く感謝する。

わたなべ ますひろ
渡辺 昌洋（正員） 1993早稲田大学大学院理工学研究科修士課程了、同年、日本電信電話（株）入社。以来、脳磁界計測を用いた人の聴覚機能の研究、ヒューマンインタフェースデザイン、ユニバーサルデザインの研究に従事。現在、NTTサービスエボリューション研究所主任研究員。博士（工学）、ヒューマンインタフェース学会、日本音響学会各会員。

ヒューマンコミュニケーション～人にやさしい情報通信社会を実現する
コミュニケーション技術～論文特集編集委員会

- | | | | | | | | | |
|----------------|---|-----------|---|---------|---|---------|---|---------|
| 委員
幹事
委員 | 長 | 渡 辺 昌 洋 | ・ | 亀 田 能 成 | ・ | 井 野 秀 一 | ・ | 今 井 順 一 |
| | 事 | 安 藤 英 由 樹 | ・ | 石 井 雅 博 | ・ | 大 野 健 彦 | ・ | 川 原 靖 弘 |
| 員 | 員 | 飯 塚 重 善 | ・ | 大 石 真 吾 | ・ | 繁 野 博 友 | ・ | 竹 内 勇 子 |
| | | 岩 井 将 次 | ・ | 小 平 高 親 | ・ | 坊 垣 | ・ | 百 瀬 桂 子 |
| | | 行 場 直 己 | ・ | 和 田 | | | | |
| | | 橋 本 洋 | | | | | | |
| | | 山 肩 | | | | | | |